

## 「学校改革から学んだ『女性と仕事』」

■開催：2019年5月

■講師：品川女子学院理事長 漆 紫穂子氏

●私の曾祖母が「社会を支える女性を育てる」ことを教育の目的とした品川女子学院(本校)を創設したのは1925(大正14)年のこと。戦後、学校経営は厳しい状況が続き、1989年ころから本校の学校改革を始め、その効果は志願者数の増加というすぐに形で表れた。1989年には55人だった志願者は94年には1724人に達した。また、改革に際して本校では、創立以来の女子教育の理念を守り、教員の大幅な入れ替えは行わなかった。

●学校改革から私は、①弱みの活かし方、②インフォーマルなコミュニケーションの重要性、③優先順位よりスピードが大事な時期もあること、そして④人が動かない理由として「知らない」「面倒だ」「責任を取りたくない」「嫌い」という4つがあることを学んだ

●一昔前の子と今どきの子の大きな違いの一つは、知識をシェアしていること。いまやノートを隠す時代ではなく、気前よくノートを共有させる子が「プラットフォーム」になって、そこに情報が集まる時代になっている。また、子どもたちにとっては、「失敗」と「もめごと」を体験することが重要である。「失敗」はチャレンジの結果であり、複数の人で妥協せずいいものを作ろうと思えば必ず「もめごと」が起きるからである。

●本校が毎年、中学3年生を対象に行っているアンケート調査によれば、子どもは親から次のような「声かけ」をされると「やる気」のスイッチが入る。1位「終わったら遊びに行こう」(ご褒美)、2位「見えないところで頑張っているのを知っているよ」(プロセス承認)、3位「偉い!すごい!よくやった!」(賞賛)、4位「少し休んだら?と、お茶を入れてくれる」(見守り)、5位「とりあえず英語だけ頑張れ」(チャンクダウン)。ちなみに、「チャンクダウン」とは、大きな目標を小さく切って越えやすくすること。その結果、1科目でも点数が上り自信がつけば他の科目の点数も徐々に上ることもある。

●逆に、子どものやる気をくじく親の言動は次のようなものである。例えば「数学が良くて英語がこれじゃあ……」というような「認めない」ことや、「お姉ちゃんのほうが……」とか「お母さんが子どもの頃には……」というような「比較」、さらに、「○○しちゃだめ」という「禁止」、そして「命令」。

●「女性と仕事」を考える際のヒントとして次の七つを紹介したい。①「トップを目指さず」「好きな仕事をした結果」としてリーダーになった女性が少なくないこと、②男女の性質の違いを理解すること、③女性のネットワークと男性メンターの存在の重要性、④自らの思いを語り、力を貸してもらおう力(頼む力)の重要性、⑤自分の立ち位置を確認するための「俯

瞰する力」の重要性、⑥女性の権利を振りかざさないこと、⑦生活と仕事についての長期にわたる生涯設計を考える必要があること。